

# 教育だより

## 歴史民俗資料館企画展「夏の風物詩」

会期／9月27日(日)まで・時間／午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)・休館日／毎週月曜日及び祝日  
入場／無料・場所／三芳町大字竹間沢877番地・問い合わせ／歴史民俗資料館 ☎258-6655

### 夏の行事

鎌洗い



▲鎌洗い (昭和62年頃撮影)

### 門火

ノゲノイブシ・ケツアブリとも呼ばれます。7月1日の早朝に家の門口で麦藁(ノゲ)を焚きま

す。この行事の由来として、坂上田村麿に関連した伝承があります。坂上田村麿が蝦夷征伐から都へ帰る途中、三芳近辺に差しかかりました。その日は雪が降るほどの大変寒い日だったので、付近に住む人々は門口で火を焚いて暖をもてなしました。



▶門火 (昭和62年頃撮影)

### 夏の子どもたち

暑い夏でも、子どもたちはいつも元気いっぱいです。特に戦前の子どものたちは、まさに自然の中でたくましく育ったといえます。夏に撮影された写真の子どもの足は、大きい子から小さい子までみんな裸足です。

また、夏の体育の時間には柳瀬川で泳いだという話も聞きます。今では想像が湧きませんが、柳瀬川の水も清らかで、ミヤコタナゴがたくさん生息していたといえます。



▲夏の子どもたち (昭和15年頃撮影)

### 三芳のお盆

三芳では、お盆は8月13日から16日にかけて行われます。まず、13日に座敷に盆棚を組み立てます。すだれで囲った盆棚の奥壁には、十三仏などの掛軸が掲げられ、棚板の上にはござを敷き、位牌とともに仏具・灯明・盆花などが供えられます。盆棚の下段には無縁仏(未婚のまま若くして亡くなった霊)が祀られます。



▲盆棚再現 (旧池上家住宅)

### 夏の風情

蚊帳

麻や木綿を四角く縫い上げた蚊帳は、寝ている時に蚊を防ぐための道具です。四隅の吊り輪を、部屋の鴨居や長押につけた紐に結んで、敷いた布団を覆います。

蚊帳の歴史は古く、中国から日本へもたらされて上流階級に広まり、江戸時代頃には庶民に普及したといわれています。しかし、昭和40年代以降は、アルミサッシの普及で網戸に取って代わられました。



▶蚊帳つり再現 (旧池上家住宅)

### 夏の野良仕事

最大の農繁期は7月半ばまで続き、その間にはほとんど農休日はありませんでした。ようやく一段落して休養が取れるのが、天王様(天王祭)とそれに続くソウゴジマイの行事です。

お盆を過ぎると、水稲や陸稲・根菜類の収穫が始まり、再び多忙な時期を迎えることとなります。



▲みよし100年まつり (平成元年撮影)

### みよしまつり

明治22(一八八九)年、上富村・北永井村・藤久保村・竹間沢村の4村が合併し、三芳村が誕生しました。平成元年は、三芳が誕生して100年という記念すべき年であり、町をあげての一大イベントが開催されました。それが「みよし100年まつり」です。おそろいの記念浴衣に身をつつみ、三芳百年音頭にあわせて盆踊りを楽しみました。

翌年の平成2年には、町制施行20周年記念として「みよしまつり」が開催され、それ以来、夏の恒例イベントとして毎年開催されています。

### 三芳のお茶づくり

「農の5月」といわれるように、夏の農作業は農繁期の始まりでもありました。「八十八夜の別れ霜」という言葉の通り、八十八夜を過ぎて遅霜の心配がなくなると、畑の種まき・さつまいもの苗さし・茶摘み・製茶・麦刈り・脱穀・田うない・田植え・草取り・養蚕など、農作業が途切れることなく続きます。

最大の農繁期は7月半ばまで続き、その間にはほとんど農休日はありませんでした。ようやく一段落して休養が取れるのが、天王様(天王祭)とそれに続くソウゴジマイの行事です。お盆を過ぎると、水稲や陸稲・根菜類の収穫が始まり、再び多忙な時期を迎えることとなります。



▲展示の様子

### 三芳のスイカづくり

大正時代から昭和30年代にかけて、三芳ではスイカ作りが盛んに行われていました。良質なスイカを作るために関西地方から種を手したり、連作障害を避けるために接木栽培を取り入れたりと、さまざまな努力がなされました。また、戦後には、接木栽培とともにパラフィン紙を苗床にかぶせて霜よけする方法も導入されました。

一期、三芳のスイカは東京の市場から出荷の依頼が来るほどの人気作物でした。しかし、スイカは収穫前に完熟の確認をしなければならず、次第に煩雑な確認作業の必要がない作物に切り替えられていきました。



▶スイカの収穫 (昭和15年頃撮影)



# 健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。  
問い合わせ スポーツ振興課(総合体育館内) ☎258-0311

今月から11月までは、「お家でできる簡単トレーニング」を紹介していきたいと思います。  
今月は「お腹編」です。

薄着になる季節、お腹のたるみなど気になる方も多いのではないのでしょうか？

やはり、ウエストサイズを小さくする代表といえば、みなさんもおわりの通り「腹筋運動」。

しかし、これが単調でつまらない…だから続かない…よってウエストサイズに変化なしの悪循環。

今紹介するのは「単調でなく、遊び心満載の腹筋運動」です。しかも、誰にでも行なえる簡単な腹筋運動。気持ちの持ち方を「腹筋トレーニングをする」ではなく「腹筋遊びをする」というように、気軽な気持ちで行いましょう。

### バタバタ

写真のような背中全体を地面につけた体制から足を交互に前方・後方に動かします。左右交互に動かすことでねじりが加わりお腹全体を刺激できます。強度は足の動かす大きさで調節しましょう。

※写真の①→②のように身体を動かします。

①



②



### 《サーキットエアロ》



日曜日10:30~11:15  
講師：猿渡大悟

このクラスはエアロビクスの強度を特にアップさせたクラスです。汗をたくさんかきたい、脂肪燃焼したい、ストレス解消したい方におすすめです。ぜひ、ご参加ください。

**図書館だより**

中央図書館 ☎258-6464  
火~金 10:00~19:00 土日 10:00~18:00  
竹間沢分館 ☎274-1722  
火~日 11:00~18:00

8月の予定

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

＜中央図書館＞  
 ぐりぐりタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)  
 第1・3金曜日 (保護者同伴)  
 11:00~11:15 6ヶ月~1歳  
 11:20~11:40 2・3歳  
 第2・4火曜日 16:00~16:30 3~8歳  
 としょかん・くらぶ会員制  
 (読み聞かせとブックトークで本に親しむ会)  
 10:10~11:00 1・2年生  
 11:10~12:00 3~6年生  
 ★夏休み科学工作室  
 <中央図書館にて申込み受付中・電話不可>  
 10:00~12:00 1・2年生/35人CDコマ  
 13:30~15:50 3~6年生/35人・マクスウエルのコマ(重心のとおり方)  
 ☆夏のおはなし会(昔語りと紙芝居)  
 <中央図書館にて申込み受付中・電話不可>  
 10:00~10:40 5歳~3年生  
 40人・親子で楽しめるお話  
 4年生~おとな  
 50人・聞きごたえのあるお話  
 11:00~12:00  
 <竹間沢分館>  
 ぐりぐりタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)  
 (第4火曜日) 11:00~11:30 1歳~4歳  
 ◆スイミーおはなし会  
 (絵本・紙芝居・ブックトーク)  
 (第4木曜日) 16:00~16:30 4歳~小学生

**児童書** 小学校低学年以上向き 「かさの女王さま」

若の絵本制作委員会文 野野子 絵  
 解放出版社 二〇〇八年九月発行  
 請求記号 児童E10

学校に行けなかったで文字が読めない吉田一子さんは、六十歳を越えてから「識字学校」で文字を学び始めた。実話を元に、彼女の苦勞と喜び、日々の生活を絵日記風に紹介。

**児童書** 中学生以上向き 「永遠に生きるために」

サリ・ニコルズ作 野の水 訳  
 偕成社 二〇〇九年二月  
 請求記号 児童933.20

白痴病で余命一年と宣告された十一才のサムは、「死んだら、人はどこへゆくのか?」など、誰も答えてくれない生と死をめぐる8つの問いに、自分で答えを出していく。胸に迫る傑作。

**児童書** 小学校低学年以上向き 「かさの女王さま」

シリニムブリッジズ文 ユテウン 絵  
 松井のり子訳 セラー出版  
 二〇〇八年十二月発行  
 請求記号 児童E10

タイのかさづくりの村で「かさの女王」が選ばれることになった。他の女性たちは伝統の絵柄、花とチョウを描いていたのに、少女ヌットが絵つけたのは、民族色豊かな絵本。

**児童書** 小学校高学年以上向き 「朝鮮通信使がやってくる」

朝鮮通信使がやってくる 信賴と友好のきずなを築いて  
 小西聖一 著 井上治 画  
 理論社 二〇〇九年四月発行  
 請求記号 児童210.0

江戸時代、日本が対等の立場で国とのつき合いを果たしたのだと、この国は朝鮮だった。国王の名代としてやってきた「朝鮮通信使」のルート、外交担当の対馬藩の雨森芳洲などを紹介。

## 図書館の本棚より「夏休みに読もう!」一グレード別に56点別巻紹介中!

### 三芳の文化財

三芳村誕生二二〇年  
明治四三年埼玉水害

明治四三年に埼玉県を襲った大水害は未曾有の水害。県内では死者四九八人、橋梁流失九〇箇所、家屋、道路の被害は数知れずと記録される。梅雨の前線に向かって台風が接近、湿った空気を前線に運ぶことで雨もたらしたと推定される。明治四三年八月一日夜半から、雨量が激しくなり、埼玉県内の荒川、利根川を始め、ほとんどの河川が大増水、各地で堤防の決壊で水田地帯は大海を思わせるが如く、山間部では土砂崩れが多発、荒川上流域には、土流や流水でせき止められ湖のようになってしまった地域もあつたと聞かす。

三芳村でも柳瀬川の堤防が決壊し水田に大被害をもたらした。この頃の三芳村の公的な記録は残っていないが、一人の小学生の残した日記から、三芳村の被害の一部を知ることができる。

竹間沢の小学生池上軍司少年は、八月一日(月)から夏休み、夏休み日記を書き残している。八月一日の前の静けさであるうか、八月一日は、久々の晴れ。軍司少年は朝五時起きし、魚釣りに川に出かけている。二日からは日記は「雨」で始まる。しかし、三日には軍司少年は「川でウナギを吊り上げ

た」と書き、雨は続くものの三芳村付近はまた水害の影響はなかったことがわかる。状況が一変するのは八月九日になってである。三芳井戸山に行ってみると、たいそう小橋の方が水で白く塗りつぶされ、増水がはじまったことがわかる。八月十一日の日記は「天水、土手が切れた。」で始まる。「五時起床。田に水を見に行きました。そしてこのつきあたりが切れて、たいてうたまりました」。柳瀬川の土手が決壊し、水田の被害の処理を家族と共に手伝ったことが書かれている。十三日は「大雨大水」とあるが、雨の中、盆飾り盆迎えをおこなっている。その後、土手の決壊や水害については書かれていないが、雨は二〇日まで降り続いたことが日記からわかる。

日記にはないが、柳瀬川の堤防修理は村総出で行なわれたと古老から聞いた。堤防修理に使う土は竹間沢の新田付近で採取。一〇〇年経った現在でも土取りで崖になった跡が残る。

明治四三年柳瀬川決壊時の堤防修理土砂採集場所 (竹間沢新田付近)

### 教育トピックス

豊かな体験が子どもたちの心を耕す  
〜農業体験〜

竹間沢小学校で、1・2年生の生活科の学習の一環として、サツマイモの植付けが行われました。この学習には、作物を育てることの楽しさや難しさ、人とふれあう喜びを体験とおして実感させようというねらいがあります。植付けから収穫まで1年がかりの学習です。

植付けの指導をしてくださる三芳町4日クラブ(農業後継者で組織する団体)のみなさんに元気にあいさつをした後、説明を聞き、いよいよ植付けです。正門から外に出て、学校の目の前にある農地へ移動します。この農地は、地域の方の厚意によりお借りしているものです。3アールほどの広がりがあり、しっかりと手入れされています。子どもたちの努力はもちろんですが、草取りなど地域の方のサポートがあったこそ、立派な農地になります。

畝に沿って並んで座った子どもたちが、先生の号令で一斉に植付け開始です。4日クラブのみなさんの大きな手と子どもたちのかわいい手がひとつひとつの苗に寄り添っています。

「土がやわらかい。」「早くおイモが出来るかな。」「焼きイモにして食

最後に、4日クラブのみなさんにお礼を言ってお別れしました。「楽しかったね。」「という子どもたちの笑顔と「感動したりびつくりしたりする子どもたちの姿を見ることは楽しい。少しでも農業の楽しさを理解してくれたいな」と語る4日クラブのみなさんの充実した表情が、風に揺れるサツマイモの苗の向こうにあります。

豊かな体験を積んだ子どもたちは、三芳町の豊かな未来を創ります。町民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

▲農業体験の様子